

おんし

恩師

いわさみきそうせんせい

岩佐幹三先生

わたし たいせつ せんせい

私の大切な先生



かひとたばたみつえ
書いた人：田畑サンドーム光恵

しゃしんひととうきょうとまえかわしろう
写真をくれた人：東京都の前川史郎さん

てつだひとひろしまもりしたせんせいなかごしせんせい
手伝ってくれた人たち：広島森下先生、中越先生

おんし せんせい なか とくべつ せんせい いちばん
恩師。それは、先生の中でも特別な先生のことです。あなたのことを一番いっしょ
かんが せんせい じんせい いちばんたいせつ おし せんせい
うけんめい 考えてくれた先生、人生で一番大切なことを教えてくれた先生のこと
です。

おんし わたし なんにん おんし ひとり いわさみき
みなさんにも恩師がいますか。私には何人かの恩師がいます。その一人が岩佐幹
そうせんせい だいがく ほうがくぶ せんせい ことし ねん わたし さい
三先生です。大学の法学部の先生でした。今年（2018年）私は57歳になります。
いわさ せんせい あ ねんちか いま わたし
ですから、岩佐先生に会ってからもう40年近くになります。でも、今でも私は
いわさせんせい たいせつ おも
岩佐先生のことを大切に思っています。

はなし わたし おんし いわさ みきそうせんせい はなし
このお話は私の恩師、岩佐幹三先生のお話です。



いわさ せんせい ねん ひろしまけん う すうねんご にほん せんそう じだい
岩佐先生は、1929年に広島県に生まれました。その数年後、日本は戦争の時代に
はい
入っていきます。

ねん にほん ぐんたい がいこく せんじょう ま にほん なか
1945年、日本の軍隊は外国の戦場で負けていました。日本の中でも、アメリカ
ぐん ひこうき き ぼくだん お とうきょう おおさか おお とし
軍の飛行機が来て爆弾を落としていきました。東京や大阪などの大きな都市だけ
たくさん まち ひが い う
なく、沢山の町がその被害を受けました。

いわさ せんせい とし さい しょうねん はなし なか いわさ せん
岩佐先生は、その年16歳の少年でした。ですから、このお話の中では、岩佐先
せい みきそうくん よ
生のことを幹三君と呼びます。

みきそうくん とう ねん がつ びょうき な みきそうくん
幹三君のお父さんは、1945年の5月に病気で亡くなっていました。幹三君は、
ひろしまし かあ いちろうと よしこ にん す
広島市にお母さんと妹の好子さんと3人で住んでいました。

みきそうくん よしこ がくと どういん がくと どういん
幹三君と好子さんは、「学徒動員」されていました。「学徒動員」というのは、
せんそう くに はたら ひと すく ちゅうがっこう いじょう せいと がっこう
「戦争のために国で働く人が少なくなっているのです、中学校以上の生徒が学校に
い か はたら せんそう とき にほん ちゅうがくせい
行く代わりに働かされたこと」です。つまり、戦争の時の日本の中学生や
こうこうせい がっこう い こうじょう はたら たもの
高校生は学校に行けなかったのです。そのかわりに、工場で働いたり、食べ物を
さいばい ばくだん お ときかじ おお たてもの こわ
栽培したり、爆弾が落とされた時火事が大きくならないように建物を壊す、という
しごと
ような仕事をさせられていました。

ねん ひろしま がつ がつ ばくだん お な ひと
1945年、広島でも3月と4月に爆弾が落とされました。亡くなった人もいます。

がつむいか ひろしまし おそ お げんし ばくだん お
そして、8月6日広島市にもっと恐ろしいことが起こりました。原子爆弾が落と
せかい れきし はじ
されたのです。世界の歴史で初めてのことでした。

げんし ばくだん あたら ばくだん げんぼく よ かくぶんれつ で
原子爆弾は新しい爆弾で、ふつう原爆と呼ばれます。核分裂で出るエネルギーを
つか つく かくへいき い ふつう ばくだん ちから
使って作るのです、核兵器と言われます。それまでの普通の爆弾よりずっとずっと力
つよ ばくだん いちど なんまんにん ひと ころ
が強い爆弾です。一度に何万人もの人を殺します。

げんぼく ひろしま お ねん がつむいか じ ふん せかい
その原爆が広島に落とされたのです。1945年の8月6日8時15分でした。世界で
はじ
初めてのことでした。この3日後、長崎にも原爆が落とされました。

がつむいか みきそうくん がくと どういん しごと やす いえ みきそうくん
8月6日、幹三君は、学徒動員の仕事が休みだったので、家にいました。幹三君
いえ げんぼく お ぼしよ ところ ごぜん じ ふん みきそうくん
の家は、原爆が落ちた場所から1.2キロの所にあいました。午前8時15分、幹三君
いえ そと
はちょうど家の外にいました。

ピカッ！！！！

ものすごい光ひかり み みきそうくんを見た幹三君は、すぐにとても強い風つよ かせで、地面じめんにたたきつけられました。

幹三君は気きを失うしない、しばらく何が起きたのかわかりませんでした。気がついたき時とき、お母さんかあを探さがしました。「母さーんかあ、母さーんかあ！どこなん？母さーんかあ！」

家は壊こわれて、ペチャンコいえになっていました。

幹三君は家の中みきそうくん いえ なかを見みました。お母さんかあは1メートル先さき たおに倒たおれていました。

幹三みきそう 「母さーんかあ！」

母はは 「幹三みきそう…こっち…」

大きな柱おお はしら め まえ たおが目の前みきそうくん なか はいに倒たおれていて、幹三君は中なかに入れはいません。

幹三みきそう 「こっちからはもう入れんはいのよ。そっちで動うごけんの？」

母はは 「左ひだりの肩かたに何かなにのっうごとる。それをどけてくれうごんと、動うごけん…」

幹三君みきそうくんは、どうにかして家の中いえ なか はいに入はいろうとしました。でも、やっぱり中なか はいに入れはいません。

すぐにもものすごく熱あつ かせ ふい風まわ ひが吹ふいてきました。周りまわ ひが火ひをだして、どもんもん燃もえていきます。火ひは幹三君みきそうくんの家いえの近ちかくにもやきって来きました。

幹三みきそう 「母さんかあ、火ひが近ちかくきに来きよる、どひんきどひん火きが来きよる！！こっちからはもう

側そばまで行いけんよ。」

みきそうくん おお ひ めい ちか こえ だ かあ
幹三君は、どうしていいかわからず、大きな悲鳴に近い声を出しました。お母さん
いえ したじ なに お こわ
は、家の下敷きになっていて何が起きているかわからないから、もっと怖かった
かあ
でしょう。でも、お母さんは、

はは はよ に
母 「そんなら早う、逃げんさい。」

い
と言ってくれました。

みきそう かあ とう ところ さき い ぼく
幹三 「母さん、父さんの所 に行行ってね。僕も、アメリカをやっつけて、
あと い
後から行くから。」

い みきそうくん しかた ひ なか に
そう言って、幹三君は、仕方なく火の中を逃げました。

にち みきそうくん じぶん いえ かえ
2、3日して、幹三君は自分の家に帰ってみました。

いえ か じ や かあ
家はもうありませんでした。火事で焼けてしまいました。そこには、お母さんの
や いたい み みきそうくん
焼けた遺体がありました。それはまるで「モノ」のようでした。それを見た幹三君
こころ くや いっぱい
の心は、悔しさで一杯になりました。

がつむいか げんぱく お ひろしま まち や のはら まち
8月6日に原爆が落ちて、広島の町は焼け野原になってしまいました。もう町に
なに ぜんぶ や ひと や し
は何もありません。全部焼けました。たくさんの人も焼けて死にました。

みきそうくん いもうと よしこ げんぱく お ひ がくと どういん い
幹三君の妹の好子さんは、原爆が落とされた日、学徒動員に行っていました。
よしこ はたら ところ や みきそうくん いえ に
好子さんが働いていた所も焼けていました。幹三君はお婆さんの家に逃げてきて
まいにちひろしま まち かよ よしこ さが よしこ
いましたが、そこから毎日広島の町に通い、好子さんを探しました。でも、好子さ
み
んは見つかりませんでした。

げんぱく お ひ いっかげつ くがつむいか みきそうくん びょうき
原爆が落ちた日から1ヶ月がたちました。9月6日、幹三君はとつぜん病気になる
てしまいました。「げんぱくしょう」でした。げんしぱくだん ほうしゃせん ぶっしつ
原子爆弾は、「放射線」というこわい物質
だ ほうしゃせん ひと おも びょうき し
を出します。「放射線」をあびると、人は重い病気になります。死ぬこともありま
す。それが「げんぱくしょう」です。「げんぱくしょう」でたくさんの人々が死にました。ひろしま
ながさき げんぱく ねん まんにん いじょう ひと し
長崎の原爆のために、1945年だけでも、20万人以上の人が死にました。

みきそうくん よしこ さが まいにちひろしま まち い げんぱくしょう
幹三君も好子さんを探するために毎日広島町に行ったので、「原爆症」になっ
てしまったのです。からだ あか ほんてん で は はな ち で
体のあちらこちらに赤い斑点が出てきました。歯や鼻から血が出
てきました。ねつ で かみ け ぬ はじ
熱も出ました。そして、髪の毛が抜け始めました。

みきそうくん いしゃ さが いしゃ み
幹三君のおばさんは、お医者さんを探してくれました。やっとお医者さんが見つ
かって、みきそうくん まいにちちゅうしゃ しゅうかん お あ
幹三君は毎日注射をしてもらい、2週間ぐらいで起き上がることができ
るようになりました。

かあ みきそうくん そだ みきそうくん いっしょう
おばさんは、まるでお母さんのように幹三君を育ててくれました。幹三君は一生
けんめいべんきょう だいがく い ねん かなざわだいがく せんせい
懸命勉強し、いい大学に行きました。そして、1959年に金沢大学の先生になりま
した。



い わ さ みきそうせんせい ひばく たいけん い わ さ せんせい はたら かなざわ
これが、岩佐幹三先生の被爆の体験です。岩佐先生は、働いていた金沢で、すぐ
ひばくしゃ かい つく ひばくしゃ げんぱく ひがい
に「被爆者」の会を作りました。「被爆者」というのは、「原爆」の被害にあった
ひとびと
人々のことです。

じつ なが あいだ ひばくしゃ りかい
実は、長い間「被爆者」のことはあまりよく理解されていませんでした。ですか
い わ さ せんせい かい しごと てつだ ひとびと じもと じちたい ほか ひとびと ひ
ら、岩佐先生や会の仕事を手伝ってくれた人々は、地元の自治体や他の人々に「被

ばくしゃ
爆者」のことをわかってもらうために、こつこつと努力どりよくをしなければなりません
した。

いわさ せんせい
岩佐先生や、そのほかのたくさんの「被爆者」の努力のおかげで、1994年に政
府ふはやっと「被爆者」を助ける法律たす ほうりつ つくを作りました。でも、この法律は、十分ほうりつ じゅうぶんに
「被爆者」を助けるためのいい法律ではありませんでした。

ですから、岩佐先生は、その後もずっと「被爆者」のための運動うんどうをしてきまし
た。金沢大学をやめた後、先生は千葉県かなざわだいがく あと せんせい ちばけん ひ こに引っ越しました。「日本原水爆被害者団
体協議会たいきよう ぎ かい だいひょう」の代表にもなりました。がんにもなりましたが、今も運動はやめてい
ません。先生のお母さんたちや、「被爆者」が体験した恐ろしいことが二度とおこ
らないように、原爆げんぱく おその恐ろしさを世界の人せ かい ひとにわかってもらうためです。

今も「2020年までに、世界から核兵器を全部なくそう」という運動うんどう おこなが行われて
います。岩佐先生たちは、「被爆者をふたたび作るな」という運動のために頑張っ
ています。

いわさ せんせい わたし おし
岩佐先生は、私たちにこう教えてくれます。

「被爆者」の経験を忘れないで、これからも若い人たちに話してあげてくだ
さい。そして、「私はそんな被害にあいたくない。だから、他の人にもそん
な被害にあってほしくない」と思ってください。そして、その思いを広めて
いきましょう。大きく広めていきましょう。そうしなければ、原爆・核兵器
はなくなりません。



けっこん いじゅう わたし ひ ぼくしゃ ひとびと なに
結婚してニュージーランドに移住した私は、「被爆者」の人々のために何も
うんどう わたし むすめ いわ さ せんせい はなし つづ
運動をしてきませんでした。私がしてきたのは、娘に岩佐先生の話をし続けただ
けです。

むすめ さい とき へい わ だいひょう に ほん げんすいばくきん し たいかい
娘は16歳の時、ニュージーランドの平和の代表として、日本の原水爆禁止大会
さん か たいかい ひろしま ひろしま い まえ むすめ
に参加することになりました。その大会は広島でありました。広島に行く前、娘は
とうきょう へい わ はなし かい さん か とうきょう す わたし いもうと むすめ
東京の平和のお話の会に参加しました。東京に住んでいる私の妹が、娘がも
へい わ べんきょう ひろしま い おも
っと平和の勉強をしてから広島に行ったほうが良いと思ったからです。

かい むすめ はなし き はなし し
その会で、娘はあるおじいさんのお話を聞いて、「このお話知っている！！」
おも じつ はなし いわさせんせい
と思いました。実は、お話をしていたおじいさんは岩佐先生だったのです。

わたし いもうと むすめ いわ さ せんせい ところ つ い こ ははおや せんせい
私の妹は娘を岩佐先生の所に連れて行ってくれ、「この子の母親は、先生の
かなざわだいがく ほうがく ぶ せい と しょうかい わたし おぼ
金沢大学の法学部の生徒です。」と紹介してくれました。私のことを覚えてくだ
いわ さ せんせい むすめ あ よろこ
さっていた岩佐先生は、娘に会ったことをとても喜んでくださいました。

ひろしま げんすいばくきん し たいかい いわ さ せんせい むすめ しんせつ
そして、広島の原水爆禁止大会で、岩佐先生はいつも娘に親切にしてくださった
そうです。

わたし むすめ いわさせんせい いのち たいせつ けつ せんそう
私と娘は岩佐先生のおかげで、命の大切さ・決して戦争をしてはいけないこ
かくへい き ひとびと どりよく まな
と・核兵器をなくすために人々が努力しなければならないことを学びました。

いまわたし に ほんご きょうし はなし つう に ほんご べんきょう ひとびと へい
今私は、日本語の教師としてお話を通じて日本語を勉強する人々に、「平
わ たいせつ し ねが
和」の大切さを知ってもらおうと願っています。

べんご し むすめ じぶん で き かたち じぶん こども
そして、弁護士になった娘は、自分に出来る形で、自分の子供たちやまわりの
ひろしま げんすいばくきん し たいかい いわ さ せんせい つた つづ
ニュージーランドの人々に岩佐先生メッセージを伝え続けてくれることによ
う。

